

令和２年度第２回秋田県職業能力開発審議会の要旨

【日 時】 令和３年３月２３日（木） 午後２時から午後３時３０分まで

【場 所】 秋田県議会棟 １階 大会議室

【出 席 者】 学識経験者：江畠委員、佐藤（賢）委員、西野委員、山口委員
事業主代表：雑賀委員、佐々木（正）委員、堀江委員、山内委員、山崎委員
労働者代表：工藤委員、菅原委員、三浦委員
特別委員：橋委員
事務局：佐藤産業労働部次長、鈴木雇用労働政策課長ほか関係職員

【概 要】

１ 開 会

２ 秋田県産業労働部次長あいさつ

３ 審議会会長あいさつ

４ 議 事

（１）報告事項

- ① 令和２年度県立技術専門校の修了・就職状況について
- ② 令和３年度県立技術専門校の入校・選考状況について
- ③ 令和２年度職業能力開発事業実施状況
- ④ 令和３年度職業能力開発事業実施計画

（２）協議事項

第１１次秋田県職業能力開発計画素案について

始めに、報告事項①から④について、事務局から説明後、質疑応答を行った。

続いて、協議事項について、事務局から説明後、質疑応答を行った。

出席委員からは多くの意見があったが、反対意見は特になく、事務局が示した策定スケジュール等により進めていくことで了承された。

質疑応答等の主な内容は以下のとおりである。

(報告事項について)

- 大曲技術専門校に新たに金属加工基礎科が計画されていますが、現在も機械等の操作の仕方などのカリキュラムがあるかと思います。

技術専門校では、最新版ではなくとも比較的新しい機械が導入されていて、その操作の仕方を勉強するのは即戦力という部分でいいと思いますが、一方で中小、零細企業では、従来の機械を使用するところもあります。

就職した企業の機械が古いために、身に付けた技術が発揮出来ないなどのミスマッチはあるのでしょうか。

- 確かに大曲校ではNCとかマシニングなどの新しい機械の操作のカリキュラムも組んでおりますが、そのほかに旋盤やフライス盤など、従来の機械も同様に使っておりますので、訓練生の希望に合わせた訓練の実施方法も検討しております。

今後、短期の訓練でNCに特化した訓練を設ける予定ですので、2年課程はまた別の最適な実施方法を検討していきたいと思います。

- 障害者訓練にEラーニングコースがありますが、障害者に限らず、対象をもう少し広げてみてはいかがでしょうか。

- Eラーニングコースは、現在は障害者訓練のみ実施しております。リモートの訓練とは違い、いわゆる教材を送って勉強するという従来の通信教育の形になっております。リモートの訓練については、実施できる業者を県内で探しておりますが、実施に至っていないのが現状です。

ただ、これからはこのような訓練を広げていきたいと考えておりますので、県内の委託先の状況等にもよりますが、引き続き多様な訓練の実施を目指していきたいと思います。

- 技術専門校の就職率はほぼ100%ですけれども、就職した後、実際どのくらい定着しているのでしょうか。

- 職場定着率については毎年度調査しており、平成30年度の修了生に関しましては、(1年後の定着率が)83.3%となっております。なるべく修了後もフォローしていくような体制を今後も継続していきたいと思います。

(協議事項について)

- 大曲技術専門校の建築施工科の定員は1年で20名ずつの計40名に対し、令和2年度の在校生数は35名という中にありながら、変更後の訓練体制を見ると、定員が20名から15名に減ることになっています。

鷹巣校の中卒課程も廃止ということなので、その点と、大曲校については、秋田中央地区からの入校生が増えている流れもある中、定員を減少したことについて、それぞれどのように判断したのでしょうか。

- 大曲校の定員を15名としましたが、もし定員以上の応募があった場合は、適当な能力を有している志願者の場合については、定員を超えて採用していきたいと考えています。

鷹巣校については、新規学卒者がなかなか集まらない中で、もう少し対象を広げて、中卒者に加え、ある程度年齢が上の離職者も対象とした一年間の訓練としました。

離職者は、通常はハローワークから紹介されて手当を受けながら訓練を受け、必要な技能、知識を身につけていただき、建設建築関係に就職することとなります。建築関係は有効求人倍率が8倍と非常に高く、来てもらいたくても来てもらえないという状況になっていることから、新規学卒者だけではなく、離職者の方にも建築分野にチャレンジしてもらい、技能を身に付け、就職していただけるよう、このような体制にしたものです。

- 秋田技術専門校ではITやリモートが学べますが、鷹巣校と大曲校でも必要ではないでしょうか。

各訓練科の中に設けるのは難しいと思うので、ITやリモートに関心のある訓練生が、一般教養のように学べる機会があればよいと思います。

専門分野を充実させることも必要ですが、ITやリモートはこれから若い人達に必要な分野ですので、それをぜひ専門校で積極的に習得できるチャンスを与えてもらえたらいいのではないかと思います。

- 今年度各技術専門校の中でオンライン訓練が出来る環境を整備しましたので、秋田校の情報システム科に限らず、各校でオンライン訓練を実施しております。

これからのビジネスにおいて、リモート関係はどんな分野においても使われることを念頭に置き、今後は全ての訓練生がリモート訓練に慣れ、リモートの利用に習熟出来るような環境を整えていきたいと考えております。

- 「地域の企業に対し、テレワーク導入講習等の在職者訓練を行う」とありますが、この内容と、企業に対してどのようにPRする予定か教えていただければと思います。

→ テレワーク訓練については、今年度すでに技術専門校3校において、鷹巣が2回、秋田が3回、大曲が2回実施しております。

PRについては、商工団体等や労働局からの協力を得て実施しました。定員が各回10名計70名のところ、60名の応募がありました。

講習は各校とも民間事業者に委託して実施しておりますが、Zoom等の使い方を教えるだけではなく、就業規則など社内規程の整備も大切であることから、その点は主に社会保険労務士が実施しております。

来年度も県内3カ所において実施する予定であり、より皆様方に届くようなPRの方法を考えたいと思います。

○ 技術専門校は男子学生の割合が高く、女子は1割程度と低いようです。男性中心の資格取得の内容が多いようなので、もう少し女性が取り組みやすい内容を盛り込めば充足率が上がるのではないかと思います。

→ 技術専門校の普通課程訓練は基本的にものづくり分野ですので、女性向けに大きく変更することは難しいのですが、離職者訓練には、介護福祉士、保育士、栄養士、美容師など、社会人の方、一度離職した方に対する長期の訓練を設定しており、受講生のほとんどが女性となっております。

また、結婚、出産、子育て等で離職した女性向けの応援事業を実施するなど、訓練以外の支援も実施しております。